

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和3年7月21日（水）

2 確認箇所

瓦礫類一時保管エリアN

3 確認項目

瓦礫類一時保管エリアNの現況確認

4 確認結果の概要

瓦礫類一時保管エリア（以下「一時保管エリア」という。）Pにおいて、保管されていたノッチタンクの一部の蓋がずれて放射性物質を含む雨水が流出した可能性があることを受けて、屋外でノッチタンクを保管している一時保管エリアNの状況を確認した。一時保管エリアNでは、H4北タンクエリアから回収した汚染土壌(※)をノッチタンクに収納し、保管している。

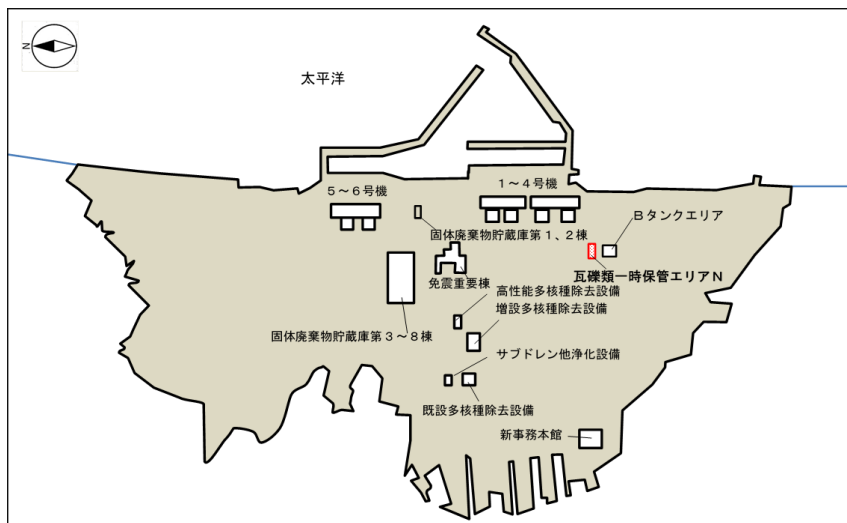
東京電力によれば、屋外で使用しているノッチタンクは計417基あり、その内一時保管エリアNには327基が保管されている。（図1）

- ・一時保管エリアNはBタンクエリアの北側に位置し、入口には「関係者以外立入禁止」の表記がされ、単管パイプとロープによるバリケードが設置されており、関係者以外がみだりに立入できない措置が講じられていた。

（写真1）

- ・ノッチタンクは1～2段積みで保管されており、周りには堰が設置され、タンク上部は屋根で覆われていた。（写真2）
- ・ノッチタンクには錆や蓋の歪み等が見られたが、確認した範囲で内容物の飛散、流出は見られなかった。（写真3）

※ 平成25年8月にH4北タンクエリアに設置されていたフランジ型タンクから高濃度の汚染水推定300m³が漏えいし、当時、堰の排水弁は開運用されていたことから、汚染水は周囲の土壌に浸透した。その後の調査で汚染が認められた土壌は回収され、土嚢及びノッチタンクに収納し、飛散防止対策をした上で保管されている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
一時保管エリアNの状況①
(西側から撮影)



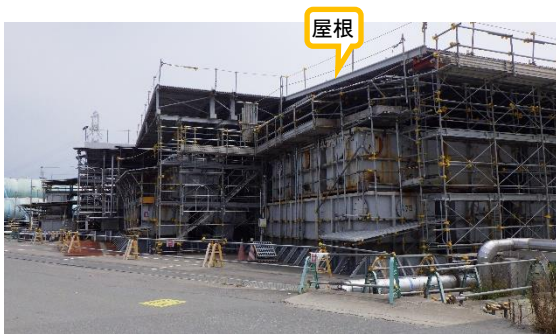
(写真1-2)
一時保管エリアNの状況②



(写真2-1)
ノッチタンクの保管状況



(写真2-2)
ノッチタンク周囲の状況①



(写真2-3)
ノッチタンク周囲の状況②



(写真3)
劣化したノッチタンクの一例

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。